



## 書を通して互いを高め合っていくことを目標に。

書道研究部の部員数は現在約40名。来春に控えた五橋キャンパス誕生を前に、今年度からは多賀城キャンパスの工学部生の入部も可能になったという。部員の7割程度は書道未経験者。「新歓行事や大学祭などで披露する書道パフォーマンスに惹かれ、入部してくる部員も多い」と話すのは、書道研究部で幹事を務める高井 伴邑さんだ。書道パフォーマンスは、楽曲のリズムやメロディーに乗せ、畳6帖半もの大きさの紙に部員数名で書画を褒していくというもの。梅姿の部員たちが、リズムカルに、そして力強く作品を完成させていく数分間は、気合いと迫りに満ちたステージとなる。コロナ禍で実現はしなかったものの、パフォーマンス動画を見た大規模商業施設から、「私たちの商業施設でパフォーマンスを披露してほしい」という依頼を受けたこともあったと高井さんは話す。

定例の練習日は木・金の週2回で、書道の練習はもちろん、書道展や部独自の作品展に向けた作品づくりに取り組んでいる。そして、書道研究部という名の通り、活動のもう一つの柱としているのが「書の研究」だ。書には楷書や行書、草書、隷書などいくつかの書体があるが、それぞれの書体について字典やテキストなどで個々に研究を進めるとともに、時には外部の書道家を講師として招き、ともに学ぶ機会も設けているという。「部員の中には全国的な書道展で受賞する学生もいます。経路も技量も異なる学生たちが、書の研究を通して互いを高め合っていくことができ、そんな部でありたいです」。

### STUDENT'S VOICE



幹事  
高井 伴邑さん  
法学部法律学科 3年  
小さい頃から絵を描いてきました。書道は大学入学後に始めましたが、空間と文字の関係は、アートの感覚としてもとても美しいと思います。



### 五橋キャンパス誕生

## 仙台市中心部に完成するアーバン(都市型)キャンパス

2023年4月、「多賀城キャンパス」と「泉キャンパス」を都市部に集約し、新しい拠点「五橋キャンパス」がスタートします。東北学院大学の象徴である「土樋キャンパス」と、新しい時代に対応する「五橋キャンパス」が一体となり、新たな教育・研究の場へ進化します。

ワンキャンパスに多彩な学部・学科が集まり、「文理融合」を実現します。キャンパスの構造としても、交流の促進を目的に建物を回遊できる2階の渡り廊下「TGUリング」を設置しました。それぞれの分野を超えたコミュニケーションの機会を作り出すことで、多様に変化する時代と世界を生き抜くための視野の獲得を支援します。また、地域と共創する大学として、地域と学生との交流を通じ、相互の活性化を目指します。



### 五橋キャンパス完成ご挨拶

五橋キャンパスの完成により、土樋・五橋地区「都心型ワンキャンパス」が実現し、東北学院大学の教育研究は大きく変わります。文理融合の象徴である数理・AI・データサイエンス教育に力を入れます。また新キャンパスの利点を生かして、地域と共創する大学を掲げます。「未来の扉センター」を開設し、地域の企業や自治体との間の産学連携やインターシップ、NPO、福祉施設、商店街との間のボランティア活動を進め、社会貢献を目指します。

現在大きく変化している時代の要請や地域の課題に応えるために、4学部5学科を開校します。「地域総合学部(地域コミュニティ学科・政策デザイン学科)」、「情報学部(データサイエンス学科)」、「人間科学部(心理行動科学科)」、「国際学部(国際教養学科)」(いずれも8月下旬に設置届出が受理)です。

聖書に「新しい酒は新しい革袋に盛れ」(マタイによる福音書9章17節)という言葉がありますが、新しい東北学院大学の教育研究にご注目ください。



学校法人東北学院院長  
東北学院大学学長

大西 晴樹